

大阪市立自然史博物館
2000年3月31日改訂

研究報告執筆要領

この要領は主としてSIST（科学技術庁：科学技術情報流通技術基準）に準拠したものである。

1. 用紙等

【プリンタ印刷の場合】

A4判用紙を縦長・横書きで使用する。上下左右に十分な余白（3cmぐらい）をとり、文字は12ポイント、行間は24ポイント（ダブル・スペース）に設定する。英文の場合、行末で語を分割しないこと（自動ハイフン機能は使用しない）。また、行末はそろわなくてよい（行末揃機能は使用しない）。

【和文、手書きの場合】

A4判・横書きの400字詰原稿用紙に、ボールペンまたはペンで書く。鉛筆書きは不可。

2. 投稿論文の構成と配列

1) 標題，抄録，本文，引用文献，表，図の説明および図で構成し，各区分ごとにページを改める。

2) 標題ページと抄録ページの構成は次の通りとし，標題ページの下部に脚注として，著者の所属とその所在地または住所を日本語と英語（ローマ字）で記す。電子メールアドレスがある場合は，付け加えることができる。

【標題ページ】

和文の場合：和文標題，日本語著者名，英文標題，ローマ字著者名

英文の場合：英文標題，ローマ字著者名，和文標題，日本語著者名

【抄録ページ】

和文の場合：英文抄録，キーワード，和文抄録

英文の場合：和文抄録，英文抄録，キーワード

3. 標題 (Title)

英文標題における大文字の使用法は、英語の慣習に従う（文頭以外の普通名詞は小文字で始める）。

4. 抄録 (Abstract)

【長さ】

和文で 200～400 字，英文で 100～200 語を標準とする。

【書き方の留意点】

1) 著者の伝えたい新規内容を重点的に書く。当該分野だけでなく，関連分野の読者にもわかるよう配慮する。

2) 抄録は標題とともに引用（転載）されるから，標題の内容の繰り返しは避ける。改行はしない。

3) 一人称は使わない（当館などの類語も）。

4) 抄録中では図・表・数式番号などを引用してはならない。文献の引用もしない。

【構成要素】

①研究背景，②目的・主題範囲，③材料・方法，④結果，⑤考察・結論。ただし，①・⑤は簡単に書き，場合によっては省略してもよい。

5. キーワード (Key Words)

1) 論文の内容を端的に表す英語の語句を 5 語前後選び，英文抄録の次の行に
Key Words : …… ; …… ; …… ; …… ; …… と表示する。

2) キーワードは標題及び抄録から抽出することを原則とする。ただし，本文が英文の場合は，本文から抽出することも認められる。固有名詞は大文字ではじめる。

6. 本文

本文の構成は，ほぼ次の順にしたがう。

①序文 (introduction ; ただし見出しは付けない)，②材料および方法 (material and method)，③結果 (result)，④考察 (discussion)，⑤謝辞

(acknowledgment).

※結論 (conclusion) を考察と別項目にしてもよい。

7. 引用文献 (Literature Cited)

【書誌要素の構成と配列】

a. 雑誌中の論文の場合

①著者名, ②年号, ③標題, ④誌名, ⑤巻(号), ⑥ページ. (巻がなく通し番号 No. のみの場合も号数を丸括弧に入れる).

英文論文の中に和文論文を引用するときは, 書誌要素の末尾に (in Japanese, with English abstract) のように記述する. 講演要旨を引用するときは, (abstract, in Japanese) などとする. 引用論文の標題からでは, 使用言語が分かりにくいときは, たとえば (in Chinese, with English summary) のようにする.

例 1 : 初宿成彦 1997. 琵琶湖岸の砂浜環境における甲虫相-海浜性甲虫の分布. 自然史研究 2(13): 181-194.

例 2 : 布谷知夫・中尾七重 1986. 民家の構造材の樹種. 大阪市立自然史博物館研究報告 (40): 21-30, pl. 2-4.

例 3 : Ohtsuka, S. and Hiromi, J. 1987. Calanoid copepods collected from the nearbottom in Tanabe Bay on the Pacific coast of the Middle Honshu, Japan. III. Stephidae. Publ. Seto Mar. Biol. Lab. 32(4/6): 219-232. (in Japanese with English abstract)

b. 1冊の図書を参照した場合

①編著者名, ②年号, ③書名, ④版表示 (必要があれば), ⑤出版社名, ⑥出版地名, ⑦総ページ数, ⑧シリーズ名 (あれば).

例 4 : 伊藤嘉昭 1970. 動物生態学入門-個体群生態学編-, 改訂版. 古今書院, 東京, 394p.

例 5 : 付着生物研究会 (編) 1986. 付着生物研究法-種類査定・調査法-. 恒星社厚生閣, 東京, 156p.

例 6 : 西村三郎・鈴木克美 (内海富士夫監修) 1971. 海岸動物. 保育社, 大阪, 196p., 64pl. (標準原色図鑑全集 16).

例 7 : Fritts, H.C. 1976. Tree Rings and Climate. Academic Press, London, 553p.

例 8 : Holme, N.A. and McIntyre, A.D. (ed.) 1971. Methods for the Study of Marine Benthos. Blackwell scientific Publications, Oxford, 334p. (IBP Handbook No. 16)

c. 図書の一つの章または一部を参照した場合

①著者名, ②年号, ③標題 (引用符 “ ” をもちいること), ④編者名 (あれば), ⑤書名, ⑥版表示 (必要があれば), ⑦出版社名, ⑧出版地名, ⑨参照ページ, ⑩シリーズ名 (あれば) .

例 9 : 山口寿之 1986. “5. フジツボ類” 付着生物研究会編, 付着生物研究法-種類査定・調査法-. 恒星社厚生閣, 東京, p. 107-122.

例 10 : Holme, N.A. 1971. “3. Measurement of the physical and chemical environment” McIntyre, A.D. and Holme, N.A. ed., Methods for the Study of Marine Benthos. Blackwell Scientific Publications, Oxford, P. 30-58, (IBP Handbook No. 16).

【著者名等の表記】

1) 和文で連名の場合, 中点で区切る.

2) 欧文で連名の場合, コンマで区切り, 最後の著者との間は “and” でつなく. 第二著者以下においても, 性が名のイニシャルよりも先に来るようにする.

例 11 : Nasu, T., Okamoto, M. and Kanazawa, I.

3) 本文中の引用において, 著者が 3 名以上のときには, 先頭に位置する 1 名の著者名を記述し, その他の著者名は, 和文では “ほか”, 英文では “et al.” をもちいて短縮してもよい.

4) 同一著者により同一年内に発表された文献は, a, b, … で区別する.

5) 引用文献欄において, 同じ著者による文献が続く場合でも, 2 編目以下の著者名は省略しない.

6) 編者のある図書 1 冊全部を引用する場合, 編者名は文献欄の初め (著者の位置) に, 役割表示 (ed., comp., 編など) を付して表示する (例 5) .

7) 編者のある図書の一部を引用する場合, 編者名は役割表示を付して, 書名の前に記述する (例 9, 例 10) .

8) 引用者が必要と判断した場合, 監修者名を表示することができる (例 6) .

【論文名】

欧文における大文字の使用法は, 原文の言語の慣習にしたがう. 副標題がある

場合は、主標題のあとにコロンのあとにダッシュを付けてもよい。

【誌名】

1) 和文誌名は、略記せずに完全誌名を記述する。

2) 英文論文において和文誌名を引用する場合には、欧文誌名を持つものはそれを記す。無い場合はローマ字書きとする。正式な欧文誌名のないものに対して、欧訳誌名を付けてはならない。中国語の誌名もこれに準じる。ロシア文字などローマ字アルファベット以外の文字で表示された誌名は、ローマ字へ翻字する。

3) 欧文誌名を略記する場合は、ISDSの“List of Serial Title Word Abbreviations”に従うこと（参照した論文の登載誌に記載されている略記形が正しいとは限らない）。不明な場合は、略記せずに完全誌名を記述し、編集委員会の指示に従う。

4) 欧文誌名記述の際の大文字使用法は、冠詞、接続詞、前置詞を除く各語の初字を大文字とする。ただし、誌名の初語の初字は、常に大文字とする。

【書名】

1) 書名はタイトルページまたは奥付に記載されているとおりに記述する。

2) 副書名は、書名の後にコロンのあとにダッシュを付けてもよい（例4, 5）。

3) 欧文書名記述の際の大文字使用法は、冠詞、接続詞、前置詞を除く各語の初語を大文字とする。ただし、書名の初語の初字は、常に大文字とする。

4) 英文論文において和文書名を引用する場合、書名は原則としてローマ字で記述し、英文書名の必要があれば英訳し、ローマ字書名の後に丸括弧に入れて付記する。

【出版者】

出版者が、団体著者名あるいは書名の一部として記載されている場合には、省略してもよい。

【出版地】

出版者の所在する都市名を記述する。出版地が複数の場合には、最初に記載されているものを記述する。

【ページ】

1) 雑誌から引用したページの表示は、はじめのページと終わりのページをハイ

フンで結び、数字の前にコロンを付ける（例 1, 2, 3）。プレートも引用する場合は、ページの表示の後に、“pl. xx-xx”と続ける（例 2）。

2) 図書 1 冊を引用したときは、その本文の総ページ数を、アラビア数字の後に“p.”を付けて表示する（例 4, 5, 6, 7, 8）。ページと別立てのプレートがある場合は、総プレート数の後に“pl.”を付けてページの後に続ける（例 6）。

3) 図書の一部から引用したページの表示は、はじめのページと終わりのページとをハイフンで結び、数字の前に“p.”を付ける（例 9, 10）。

4) ページが連続していないときは、次のように記述する。

例 12：（図書の一部からの引用）： p.15-20, 22, 24-29.

5) ページ付けが章ごとに分かれている場合には、章番号をページの前に記し、区分記号としてピリオドを用いる。

例 13（図書の一部からの引用）： p.10.61-10.67（10 章 61 ページから 10 章 67 ページまで）

【シリーズ記述】

図書（論文集、会議報告を含む）が、シリーズ名をもっているときは、シリーズ名と巻数、号数等を丸括弧に入れて記述する（例 8, 10），ただし、シリーズ全体の書誌記述をするときは、シリーズ名を書名とする。

8. 図 (Figure)

1) 英文の標題・説明を付け、Fig.1. ……と表示する。説明原稿は、図とは別の用紙に記す。

2) 図の中の文字や記号はレタリングやインスタント・レタリングなどを用い、写植指定はできない。

9. 表 (Table)

表ごとに別の用紙に記し、すべて英語を用いて作成する。上部に Table

1. ……と表示する。表には原則として横罫のみを用いること。

10. 学名の字体

生物の属およびそれより下位の学名はイタリック体として印刷するので、原稿では赤色の 1 本の下線で指示する。

追記：「自然史研究」の原稿もこの執筆要領に準ずる.